公益財団法人
宮城県国際化協会
MIYAGI INTERNATIONAL ASSOCIATION
倶楽部MIA

宮城県国際化協会
機関紙
（季刊発行）
141
2025.12

みやぎの多文化な人　宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

インドネシアと日本をつなぐ店を目指して

(左)髙橋　エンジさん
インドネシア共和国出身
(右)髙橋　雅美さん
大崎市出身　SUNDA⇔LAND経営

食事を楽しむインドネシア人技能実習生たち

2025年7月に、塩釜にハラルフード(※)を提供するインドネシア料理店SUNDA⇔LAND(スンダランド)がオープンしました。主に料理担当である髙橋エンジさんと、エンジさんの夫の母で、店のオーナーである髙橋雅美さんにお話を伺いました。

※ハラルフードとは、イスラム教の教えにおいて食べることを許された食べ物を指す。

――日本に来るまでのことを教えてください。

エンジさん(以下、エ)：首都ジャカルタから車で2時間ほどのブカシ出身です。家族が食堂を営んでいたので、私も子どもの頃から料理が好きで、ナシゴレンなどを作って喜ばれていました。高校生のときにアニメや京都の美しい風景をテレビで見て日本に興味を持ち、大学で日本語・日本文化を勉強しました。並行して日本の食品メーカーで働くことになり、学業との両立は大変でしたが、日本人の上司から日本のことを学ぶうちに、「いつか日本で働いてみたい」と思うようになりました。

――はじめて日本に来たのはいつ頃ですか 。

エ：2023年の11月に特定技能(※)の在留資格で、松島町の介護施設で働くために来日しました。不安よりもワクワクした気持ちの方が大きかったです。仕事を通じて日本人の夫と知り合い、結婚して1年ほどになります。インドネシアと日本で考え方の違いもありますが、夫は優しい人なので、話し合って互いに理解しようと努めています。

※人手不足が深刻な産業・分野で即戦力となる専門性・知識のある人材を受け入れるための在留資格

――塩釜でインドネシア料理店を開くことになったのは、どんな経緯があったのですか。

雅美さん(以下、雅)：エンジさんの手料理が美味しくて、とても驚き、二人でインドネシア料理を作ってみるようになりました。息子との結婚が決まり、彼女の仕事について相談した際、「二人でインドネシア料理店をやってみよう!」となったんです。私は会社勤めの経験のみで、飲食業は未経験だったので、大きな決断でした。

――店の開店まで苦労したことはありましたか。

雅：本当に手探りの状態でスタートしました。人の意見を聞いて備品を揃えてみたら「こんなにいらなかった!」というような失敗もありましたね。

エ：結婚して在留資格を切り替えるのに3ヶ月ほど時間がかかり、その間母国で料理の勉強をしました。姉が麺料理の専門店を経営しているので、レシピを教わりました。壁に飾ってあるお店の看板もインドネシアで作ってきたんですよ。

雅：店の内装の多くは大工をしている私の夫が担当しました。SUNDA⇔LANDという名前は夫の発案です。現在のマレー半島とインドネシアの一帯はその昔陸続きにつながっていて、それがスンダランドと言われています。そこにルーツのあるのがエンジさんのスンダ族なのだそうです。この店を通じていろんなつながりができるようにという思いが込められたのが、この店名なんです。メニューは、エンジさんに候補を出してもらい、本場の味でありつつ日本人の口にも合うよう家族みんなで選びました。エンジさんは私の相談に対し、はっきり意見を言ってくれるので助かります。息子の嫁というより、友人に近い存在ですね。

――どんなお客さんが来るのですか。

雅：日本人と外国人のお客様が半々で、国籍を問わず県外からも多く来てくださいます。あるとき、日本人のおばあちゃんたちが、隣席のインドネシア人が手で食事をする様子を見て、「はじめて見た」と驚きつつも、文化の違いなんだなと受け止めていました。インドネシアのお客さんが日本人のお客さんに料理の食べ方を教えたこともあります。この店がインドネシア、そして異文化への理解につながる場になればと願っています。

エ：近くの幼稚園からの依頼で、子どもたちにインドネシアを紹介する機会もありました。宗教や食文化などについて話し、伝統衣装のバティックやイスラム教の女性が着用するヒジャブを着てもらいました。「すごい!」「楽しい!」と言ってくれてよかったです。

日本語講座だより　「保健・医療について学ぶ会」を開催しました

去る11月12日、MIA日本語講座の初級クラスで、病院のかかり方や感染症の予防について学ぶ研修会を行いました。今回は「保健・医療を学ぶ会」と題してフランス出身医師・宮澤イザベルさんと仙台市保健所の方を講師に招き、日本の病院での受付から診察、会計までの流れや感染症の予防に効果的な手の洗い方を通訳付きで学びました。参加した受講生19名は、6言語のグループに分かれ、熱心に講師の話を聞いていました。手の洗い方の実践では、和気あいあいと楽しむ様子も見られました。中には日本に来て間もない方もいて、「もし初めて病院に行くことになったらどうすればいいかわかった」、「受診する際に何が必要か知ることができた」といった声が寄せられました。MIA日本語講座では、外国人の方々の暮らしの安心につながる取り組みとして、年に2回日本での生活に役立つテーマの研修会を開催しています。

手の洗い方を学ぶ受講生たち

MIA日本語サポータービギナー研修会（オンライン）

日本語を学習したい外国人にマンツーマンで日本語を教えるボランティア活動について基礎から学ぶ研修会です。日本語サポート活動を始めてみたい方、登録はしてみたけれど実際どうしていいか分からないというビギナーの方々におすすめです。

■日時　2026年2月5日（木）13:30～15:30
■場所　オンライン（Zoom）
■内容　地域の国際化と日本語ボランティア活動について、外国語としての日本語、日本語学習教材の紹介、やさしい日本語、サポート経験談の共有など
■講師　MIA日本語講座スーパーバイザー、日本語サポーター
■定員　20名（先着順）
■申込　Google form　https://mia-miyagi.jp/260205beginner または右のQRコードから。

※参加はMIA日本語サポーター登録者に限ります。未登録の方は事前にMIA日本語サポーターへの登録をお願いします。

シリーズ　外国につながる子どもたちの支援について考える

第17回　宮城県田尻さくら高等学校　教頭　吉田 良子さん

高校における外国人生徒の受け入れ

今年4月、初めての高校勤務を命ぜられたことで、ある外国人生徒と中学校、高校の両方で関わりを持つことになり、生徒の受け入れや高校受験に向けた準備、高校入学時の手続きなどを経験しました。

外国人児童生徒等の受け入れに関しては、義務教育である小・中学校と公立高校では大きく異なります。小・中学校では、ある日突然外国人が転入してくることがありますが、公立高校では何かしら入試を経ての入学なのでそれはありません。一方で、本校に勤務した半年程の間にも、15歳を超えていたため、中学校に入れずに高校入学を希望するケースや、日本の中学校を卒業して社会に出たものの、高校卒業資格の必要性を感じ入学を希望するケースなど、事情が異なる多くの相談を受ける中で、外国人入学希望者の増加を肌で感じています。

一言で外国人生徒の高校受験と言っても、日本での中学校在籍の有無や、来日時の年齢、日本語能力、周囲の環境等で必要な対応は大きく異なり、中学校、高校の両方で一人一人に応じた対応が求められます。しかし、現在の教師不足の問題や様々な困り感を抱える生徒等への対応などで、学校現場も余裕がある状況とは決して言えません。

多くの学校が外国人児童生徒等への対応を求められている現在、そのノウハウの共有は必要不可欠です。私自身、現在も様々な入学希望者への対応を通して知識を得ている状況です。今も困った時はMIAと連絡を取り合っていますが、高校受験の具体的な事務処理などは、校内で抱え込まずに関係機関に気軽に問い合わせることで、解決のヒントを得られることも多くあると思います。そして、ノウハウの共有とともに、入学を希望する外国人生徒の対応が急増していることを受けて、高校受験の要件や必要な手続きについて多言語で相談できる窓口の存在は、学校のみならず外国人生徒及び保護者にとっても心強い存在であると感じています。

お知らせ 「倶楽部MIA」の最新号及びバックナンバーは、WEB上でご覧いただくことができます。
倶楽部MIA 検索

多文化なトピック

石巻国際サッカーフェスティバル2025

10月19日に、石巻市湊地区コミュニティ広場で石巻国際サッカーフェスティバルが開催されました。漁業、水産加工、農業などの分野で、技能実習生・特定技能などとして働くベトナム、インドネシア、ネパール（2チーム）、塩釜の日本語学校、石巻サッカー協会選抜の合計6チームが参加し、熱戦を繰り広げました。このフェスティバルの事務局長を務める西川慧さんにお話を伺いました。

このフェスティバルは石巻のモスク建設に関わったメンバーが中心となり、石巻地域で働く外国人と地域の方々との交流促進を目的としてはじめたものです。初回はインドネシアと石巻サッカー協会選抜のチームの親善試合のみでしたが、3回目となる今回は塩釜、仙台、岩沼からも参加がありました。サッカーの試合ですから、時には白熱する場面もありましたが、負けたチームが決勝で戦っているチームを応援したりと、国の垣根を超えて盛り上がりました。試合後は、ハラルカレーがふるまわれ、みんなで食べながら懇親を深めていました。試合に参加した選手の子どもたちが一緒になって遊ぶ姿もみられ、印象深かったです。参加の希望が多く、より大きな規模での開催が求められる中、いかに地域に密着した形にしていくのかを考えていきたいと思います。

岩沼FC対塩釜のMSFC
（どちらもネパール人チーム）の試合の様子

登米市豊里町横町町内会とインドネシア人技能実習生との交流

登米市豊里町横町町内会では、町内に暮らすインドネシア人技能実習生と継続的に交流を深めています。町内会会長の勝倉淳一郎さんに交流の様子についてお聞きしました。

昨年から、町内の企業に勤めているインドネシア人の技能実習生と交流を重ねています。自宅と会社を行き来する姿をいつも目にしていて、同じ地域の住民としてお付き合いができればと思い、私から声をかけました。

高齢者との交流会や夏祭りに参加を呼び掛けると、皆さん喜んで参加してくれました。今年の10月には、グラウンドゴルフ大会を企画して、技能実習生12人、町内会会員25人が参加しました。悪天候だったため、屋内でのビニールバレーボールと卓球バレーに切り替えましたが、インドネシアの皆さんはバレーボールの経験があったようで、元気いっぱいに歓声を上げながらゲームを楽しんでいました。

日本語がある程度できる方々ではありますが、インターネットの翻訳サイトを活用して、参加の案内や当日配布するプログラムをインドネシア語併記にして、大変好評を得ました。通常の会話にはそれほど支障はないので、どの交流の場面でも、世代の壁を超えて和気あいあいと談笑の輪が広がる光景が見られて、とても嬉しく思っています。

会員からは、「気軽に挨拶を交わせるようになった」という声が聞こえています。なかには自宅で採れた野菜の差し入れをする人もいるようです。みなさん、インドネシア人が自転車で出歩く様子を見て、気にはなっていたんですね。

こうした町内会と外国人との継続的な交流は、他ではあまり例がない取り組みのようですが、地域の活性化にもつながる、有意義なことだと考えています。登米市内の他の地域にも外国人が暮らしているので、私たちの地区以外にも外国人との交流を深める意識が広がっていくことを願っております。

グラウンドゴルフ大会に向けた練習会にて

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

外国人のための日本語で学ぶライフプラン-健康で安心して暮らすために-

著者：移民女性のリプロダクティブ・ジャスティス・プロジェクト
発行：㈱スリーエーネットワーク

就労や就学を目的として日本に暮らす外国人は増加傾向にあります。この教材では、日本で生活する上で役に立つ、仕事や在留資格、妊娠・出産に関する日本の制度について、日本語学習初級修了者でもわかりやすいことばで紹介しています。各章で「ライフプラン」、「日本で仕事をする」などのテーマが決まっており、タスクを学習者と一緒に話し合ったり、考えることで日本語の学習になるだけでなく、様々なリスクを回避し、日本で安心して生活できることに繋がります。

ウェブサイトでは、英語、中国語、ネパール語、ベトナム語、インドネシア語、ビルマ語の6言語の訳付きの語彙リスト、教師用ガイドがそれぞれ無料で利用することができます。

みやぎの国際活動団体

松島善意通訳者の会　SNS・英会話講座担当　七島　美津恵さん

私たちは松島瑞巌寺・円通院を訪れる外国人観光客への通訳ボランティアガイドを定期的に行うほか、月に2回初級レベルの方を対象とした英会話教室も実施しています。松島を訪れる外国人は、何度も日本を訪れていて日本文化に詳しい方も多いため、勉強会を実施するなど日々切磋琢磨しながら活動を行っています。11月には松島・天麟寺を会場に、観光で訪れる外国人や県内在住の外国人を対象とした、俳句、抹茶、生け花、書道、折り紙などの日本文化の体験プログラムを実施しました。このイベントでは会員がそれぞれの得意分野を生かし、指南役を務めました。観光客を中心にたくさんの参加があり、参加者・会員ともにとても楽しい時間を過ごすことができました。

天麟寺でのイベントの様子

◎一緒に活動する会員、英会話教室の受講生を募集しています。
詳しくは、下記サイト・SNSをご覧ください。
Website：https://www.matsushimagw.club/
Facebookアカウント：https://www.facebook.com/MatsushimaSGG
Instagramアカウント：@matsushimagoodwillguideclub

サポーターの声

斉　暁営さん　MIA外国人支援通訳サポーター（中国語）

小学生とその保護者が小児科発達外来を受診する際の通訳を担当しました。医師の保護者に対する質問が、「どうですか?」といったように漠然としていて意図をつかみかねることがありました。当然、保護者からの返答も医師が求めるものにはならず、途中から医師に質問の意味を確認しながら通訳するようにしました。これはほかの病気やけがの診察とは大きな違いではないかと思いました。

日本ほどではないにしても中華圏でも発達障害に対する理解は徐々に進んできています。今回担当した保護者は、自分でもいろいろ調べていて一定の理解はあるようでした。保護者は薬の副作用を非常に心配していて、医師に質問を重ねていましたが、保護者の気持ちに寄り添うことも通訳の役割のひとつだと実感しました。

賛助会員募集

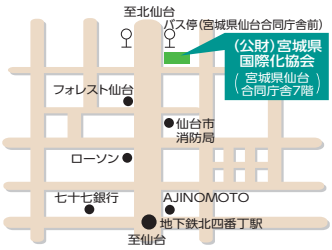
MIA（公財）宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。

●賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体（国際活動団体、企業、機関）など

●賛助会員の区分と年会費
個人会員／1口　3,000円
団体会員／1口　10,000円

●賛助会員の特典
◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙
倶楽部MIA の定期送付（年4回）
◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供

●入会方法
◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部MIA vol.141
編集・発行
公益財団法人宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL　022(275)3796
FAX 022(272)5063
E-mail mail@mia-miyagi.jp　URL https://mia-miyagi.jp

FSC www.fsc.org ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C009168
VEGETABLE OIL INK